令和８年度 第１回長崎市文化振興審議会　議事録

日　時：令和８年１０月１５日（木）９：３０～１１：００

会　場：市役所１３階　中会議室

次　　第：

１　辞令書の交付、委員の紹介

２　会議の基本的事項について

３　会長及び副会長の選任について

４　長崎市芸術文化振興プランにおける取組みについて

５　新たな文化施設の整備等について（報告）

次第１　辞令書の交付、委員の紹介

【事務局（市民生活部）】
　辞令書の交付、委員の紹介

次第２　会議の基本的事項について

【事務局（市民生活部）】
　会議の記録、公開について説明

次第３　会長及び副会長の選任について

【委員】
　会長に堀内委員を推薦する意見があり、他の委員も意義なし

【会長】
　堀内委員承認。小坂委員を副会長に指名

【委員】
　小坂委員承認

次第４　長崎市芸術文化振興プランにおける取組みについて

【事務局（市民生活部）】
長崎市芸術文化振興プランにおける取組みについて資料１・資料２により説明

【会長】
　この審議会で自主文化事業等がどのように実施されているのかをなぜ議論するのかというのは、長崎市芸術文化振興プランの中で当審議会が長崎市と連携をしながら、事業やこのプランがうまくいってるかどうかを検証し、長崎市はこの審議会に報告するということが明記されている。今後きちんとプランから進んでいるかというチェックが必要だと思う。
　先日芸術文化シンポジウムが開催されたが、参加された委員から一言ずつお願いしたい。

【委員】
　シンポジウムに思った以上に多くの方が来場され、定員以上の申し込みがあったと伺っている。それだけ市民の文化芸術への関心がピース文化祭を通して高まっていると捉えた

い。私自身は演劇や映像の方、他ジャンルの方と話すことができ、広がりが持てたと思うが、こうしたジャンルを超えた対話が様々な場面で行われているといいと感じた。

【会長】
オンライン参加の委員はいかがか。
音声がうまくいってないので、もし繋がったらまた後で。

＜オンライン参加委員のコメント＞※当日紹介できなかったため、後日委員へ共有
長崎×芸術文化シンポジウムに参加させていただいたが、他ジャンルの人との繋がりはそれぞれのジャンルの活動に有益だと思うので、「文化団体の交流促進」という位置づけで、色々な方々が交流する場を作るのが良いのではないかと思った。イベントにして観客に見せる必要もないので、継続的にそういう場があると良いと思う。
別件だが、「成果指標」が「割合（人数）」だけになっている事は、問題だと思う。計測できる数としては分かりやすいのかもしれないが、目の前で実施されるアウトリーチ事業は文化的な豊かさが高いと思うが、人数としてはどうしても少なくなるので、そういった「豊かさ」が表せる指標があると良いと思う。

【委員】
オンライン参加の委員とのやりとりはしっかりと準備をしててもらわないといけない。
今回の芸術文化振興プランについて、全体として様々な事業が実施されていることは評価したい。ただ１つ気になるのは、文化活動の継続性という観点である。昨年のながさきピース文化祭 2025 は、多くの県民市民が文化に触れ参加する機会となったが、重要なのはその成果を今後の文化振興にどう生かしていくかということだと思う。
例えば、今回の資料では各事業の開催回数や参加人数については詳しく報告されているが、それによって新たな文化活動の担い手がどれだけ育ったのか、文化団体の活動がどのように活性化したのかという点はなかなか見えてこない。私自身文化団体の活動に携わる中で、会員の減少や高齢化、後継者不足を深刻に感じている。
２年前に国民文化祭を開催した石川県では文化祭の成果を一過性のものとせず、その後の文化振興につなげる取り組みが進められている。例えば、金沢市民芸術村を作って、演劇・音楽・美術などの創作活動のための拠点として、各分野のディレクターによる企画や育成事業などを展開、あるいはアーツカウンシル金沢というもので文化活動の相談、助言、情報発信、調査研究、人材育成、交流機会の創出といった５つの柱で支援をしている。
長崎市においてもイベントを開催するだけではなく、文化祭を契機として生まれた成果を継承し、文化団体への支援や次世代の人材育成につなげていくことが重要ではないかと思う。
長崎市では、ながさきピース文化祭 2025 の成果を今後の継続的な文化振興施策にどのよ

うに反映させていく考えなのか。芸術文化シンポジウムでも、いろんな提言がパネリストの方からもあったと思うが、それを具体的にどのような形で進めようとしているのか、お聞きしたい。

【事務局（市民生活部）】
昨年度はながさきピース文化祭、大盛況のうちに閉幕となり、感謝申し上げる。県内で 224 万人、長崎市の主催事業としては 37 事業で 26 万人の来場があり、市民も県外の方も芸術文化に触れる大変貴重な機会になったと思っている。
出演者、出演団体、来場者へのアンケートの結果、今回の事業で得られたレガシーとしては、各分野の魅力発信、他団体との交流、次世代への継承や人材育成、こういったところが今後必要だというご意見が多く挙げられている。これを受けて市でも、今年度は芸術文化シンポジウムという形で、市民の皆様に芸術文化を考えてもらう、触れてもらうきっかけとして実施した。
また、若い世代にまずはきっかけを作りたいということで、引き続き学校へのアウトリーチや鑑賞の機会を設けることを大事にしていきたい。また皆様の芸術文化活動の活性化も当然ながら必要であるので、ここについては団体それぞれの活動もあると思うが、他団体との交流促進、さらにどうしたら市民にもっと発信ができるか、大人も子どもも含めてどういったところができるか、今回のピース文化祭でいただいたご意見を参考にしながら、引き続き市でも事業展開を考えていきたい。

【委員】
まだ具体的なところは固まってないのか。

【事務局（市民生活部）】
来年度以降どのような事業をやっていくかというところは、まさに事業編成の時期である。ピース文化祭も含め、今回のシンポジウムのアンケートも今とっているので、そういったご意見も踏まえながら、市民にどうやったらもっと芸術文化に触れる機会に発展していくのかというところをしっかり考えて取り組んで参りたい。

【委員】
確かに文化に触れる機会が非常に増えて、参加人数が増えたというのはすごく感じているが、担い手の不足、高齢化、育成が一番の課題である。そこについての対策が弱いと感じるので、できるだけ具体的な施策を考えていただきたい。

【会長】
アンケートの報告していただくのは素晴らしいが、課としての内部での評価ができてな

い。金沢のアーツカウンシル芸術プランは先駆的、やがてはアーツカウンシルのように、ジャンルを超えて若い人も育てていくことを目指したい。
それから委員がおっしゃったように、文化に対する盛り上がった気運を消さないようにしないといけない。来年度予算だけではなく、これはとても大事なテーマだと思うので、検討いただきたい。

【委員】
先ほどの委員のご意見の中で、人材育成というお話があったが、本当にいけばなも高齢化している。その中でもいけばな教室を開いて頑張りたいという若い方が出てきてはいるが、問題はまず教える場所がない。今の時代、昔のように自宅で教室を開くのが難しく、いけばなを教える所がない。花器や剣山がすごく重く、いちいち教えるのに運んで教えてる方がおり、月謝も花材費をひくと本当に月の収入はないので、それで食べていける時代ではないのが１つ問題にある。昔はお茶でも邦楽でもいけばなでもそれで食べていけたので、皆高い月謝を払って何十年も続けていたが、今は趣味でしか続けられない、他にちゃんと収入を得る仕事がないと続けられない時代となっている。
いけばなも本当に厳しい中で続けているのに、展示する場所に困っている。生花なので美術館が使えない、今度新しくできる施設にそういう会場を期待していたが、予算が削られるようなので。
それから、昨年のピース文化祭はブリックホールを使って、いけばなの祭典として展覧会ができたが、指定業者が変わったので、以前の計画にクレームがついて、エントランスは展示する場所じゃないということで、今後は使えないという話になっている。長崎国際文化協会主催の発表会の時もいけばな連盟からお花を展示するが、今回も受付があるエントランスに、お客さんが入ってこられるところに展示したいと申し入れたが、却下された。本当にいけばなを見る場所がない、若い人がいて、活動する場所を公的にも何かできないかお願いしたい。

【会長】
いけばなに限らず教える場所がない、練習の場所がない、発表する場がないのは、すべての分野共通する大きな検討課題かもしれない。

【委員】
私も様々な団体の助成活動等の動きの中で接することがあり、やはり継続の部分が非常に苦労されている団体が多い。資金的な面だけじゃなく、今言われた場所のところは大きいかと思う。市内の空いてる空間を何とか工夫していただければと思うので、市でもそういった点は検討をしていただきたい。
今聞いて私も具体的なことが初めて分かるところがあるので、皆様方から個別的なこと

かもしれないが、たくさんのことを市に言っていただけると、事情が分かるのかと思う。

次第５　新たな文化施設の整備について

【事務局（市民生活部）】
　新たな文化施設の整備について資料３により説明
　市民生活部理事及び市庁舎跡地整備室長、係長の紹介

【会長】
　説明いただいた内容について、皆様ご質問ご意見をお願いする。

【委員】
　これまでの経過を見ると、新しい市長になり、市長の鶴の一声で見直しが行われたことでガタガタきている。その間、スポーツ施設は発展し、スポーツ文化は本当に華やかになっているが、新しい文化施設が出来ておらず困っている。市長には審議会に出席していただき、謝ってほしいと思う。

【委員】
　いまの意見に同意する。謝らなくてもいいので、必ず作るということを明言してほしい。
　今回、新たに加わったＮＨＫ長崎放送会館との連携について何点かお尋ねしたい。ＮＨＫの移転によって、新たな文化施設の相乗効果や賑わいの創出が期待できるという点については理解できる。ただ、ＮＨＫに対して市庁舎本館跡地の約３割にあたる、2,000 平米の土地を提供する方向で協議が進められており、ＮＨＫは所有権の取得を希望している。この土地を売却する場合に、長崎市にどのようなメリットがあり、将来の土地利用も含めてどのような検討がなされているのかお聞きしたい。
　また、ＮＨＫの立地に支障とならない建物の高さや用途などは協議中ということだが、こまで進めてきた文化施設の整備計画に新たな制約や費用負担は生じることはないのか懸念しておりお尋ねしたい。
　最後にＮＨＫとの文化面での連携についてだが、公開収録やパブリックビューイング、文化発信などの提案が示されているが、ＮＨＫが文化施設に隣接するのであれば、長崎の伝統文化や地域の芸術活動を広く発信するなど文化振興面でも大きな可能性が考えられる。基本合意に向けて、文化芸術活動への具体的な協力関係についても検討されているかお聞きしたい。

【事務局（市民生活部）】
　ＮＨＫが移転することによる良い影響についてだが、この場所自体が、駅から商店街に行

くためのまちなかに位置しており、施設利用者だけでなく、この場所に立ち寄って、さらに波及効果としてまちなかに人が回遊していく点が大事なところだと考えている。ＮＨＫがどのような施設になるかはこれからになるが、一つの集客・賑わいの施設として連携できる部分を協議していきたい。また、この土地は、長崎市にとっても貴重な土地であり、地代収入というところでどのような形態になるかは協議のうえになるが、良い影響の一つとして期待している。

２つ目の費用負担と悪い影響についてだが、費用負担は当然、ＮＨＫのほうで整理を進めており、土地、地代をどのようにしていくかが、市としての関わり方になってくると考えている。今後のスケジュールについては以前とは変わっておらず、新たな文化施設の開館に影響がないように、しっかりと調整をさせていただきたいということをＮＨＫ側にも了承を得ているので、これまでどおり進めていく予定となっている。

３つ目の文化面での連携についてだが、ＮＨＫは教育番組など子どもから大人まで楽しめるコンテンツをもっており、文化施設とどのように連携できるか、また、市民・市外の方にどのように来ていただけるかという点での連携についても協力いただけることを確認しているため、今後詰めていきたいと考えている。

市としては、文化施設の隣に親和性の高いＮＨＫのコンテンツが入ってくるので、周辺に開かれた空間となるよう、検討していきたいと考えている。

【委員】

もし、ＮＨＫが所有となった場合、まだ新たな文化施設が建っていない状況での話になるが、将来的に違うことに使うとなったとき、三分の一しか使えないという状況になる。そのあたりを考えると、あくまでも貸すという方向で市としては考えているのか。

【事務局（企画政策部）】

当初の背景から申し上げると、文化施設を軸に検討を進めていたなかで、文化機能だけでなく、他の機能も付加するということで文化施設以外に使用できる土地が出てきたことから、余剰地部分をどのように使用するかを検討してきた。今回、ＮＨＫの移転候補地ということで検討を進めていくなかで、所有権をお渡しするか、借地するかということについては、長崎市としても協議中である。ＮＨＫが移転することで、安全安心なまちづくり、賑わいの創出、地代収入についてどのような効果を得られるかしっかりと検討していきたいと考えている。

【委員】

土地の件に関しては、本来は市議会での話になると思うのでここまでにしておくが、11 月での協議を目途にということなのであまり日にちもないが、文化振興に関する連携についても含まれていると考えてよいか。

【事務局（企画政策部）】
ＮＨＫとは、移転に向けた大筋の合意事項というところを協議している。賑わいの創出については、連携して取り組むことは確認しているが、文化振興に資する取り組みなどは、11月の時点で詰める状況には至っていない。
ここについては、文化施設だけでなく、隣接する公園やほこみちという事業も含めて、ＮＨＫ側とどのような連携ができるかというところを考えていきながら詰めていく必要があるので、取り組み事項を整理したいと考えている。

【委員】
ぜひお願いしたい。それぞれの施設がバラバラで動くのはもったいないと思う。

【委員】
12 ページの面的整備の検討状況について、資料の赤の点線で囲まれているところを今回検討の対象とし、桜町駐車場と桜町公園は対象外になることは理解できた。そして、駐車場は老朽化しており、周辺に駐車場があるということも理解できた。私は賛成である。一つ気になっているのが、桜町駐車場と桜町公園のところである。例えば、ＮＨＫについては、福岡だと大濠公園のところにあり、東京だと渋谷の一角にある。文化会館についても色々行ったが、まちなかの賑やかなところでやるというところがいい。もう一つは小さいスペースでもいいので、公園があるといい。
そこで、対象外ではあるが、桜町駐車場と桜町公園を合わせたスペースを公園として活用できないか。ＮＨＫや文化施設の利用者をはじめ、周辺に車を停めて歩いてきた人が一息つけ、文化的な空間が広がると思う。

【委員】
子どもや高齢者の方が、バリアフリーで文化に触れられることはとても大事な部分だと考えている。新たな文化施設は勾配のあるところに整備され、市役所や市民会館の駐車場に停めて、ベビーカーを押しながらとか、車いすに乗らないといけない方、杖を使わないといけない方が坂を上っていくことはなかなか考えられない。駐車場から降りて、すぐエレベーターに乗って、ホールのロビーに向かえる動線を確保してほしいと考えていたので、身体障害者用駐車場を 1 台以上確保すると書いているが、1 台のみにならないようにしてほしい。桜町電停側だとバリアフリーという視点になると思うので、今からどのようになるかは未知数ではあるが、向かい側に渡れる場所などの動線はぜひ検討してほしい。
また、市役所や市民会館の駐車場は割高なので、料金面も含めて市民にやさしい公共施設を考えてほしい。

【事務局（市民生活部）】
バリアフリー的にも桜町電停側が一番施設に入りやすい場所なので、今後の事業者の提案に繋がるように、例えば、運用の面で荷物を降ろせる場所を確保することが出来ないか検討していきたい。また、市営駐車場においても催事が開催されているときに停めることが出来なかったということが起きないよう、催事のキャパや利用者に合った動線の確保はとても大事なことだと考えている。
いただいた意見は、文化施設側の一つの条件として事業者に提案していただけるよう進めていきたい。

【委員】
附置義務の駐車場はモデルプランに算定した場合、24 台ということになっているが、これは 24 台を確保するという理解でよいのか。

【事務局（市民生活部）】
現在のモデルプラン上であれば､附置義務駐車場が 24 台入るということになっているが、実際に事業者が提案する設計次第では、この通りにならないことも考えられるので確定したものではない。ただ、附置義務の必要台数はどこかに必ず取るべきであり、いまのモデルプラン上であれば敷地内に取れるということと、併せて、24 台のうち何台は必ず敷地内に必要かというところを詰めて、条件化していきたいと考えており、24 台を必ず敷地内に確保することは必須条件ではない。

【委員】
半径 500 メートルの資料についてだが、国土交通省のハンドブックからもってきたということで、確かに、高齢者の一般的な徒歩圏は半径 500 メートルとなっているが、これは健康で自立した高齢者のことだと思う。杖や歩行器を使わないといけない方々、赤ちゃんを抱っこしている方々のことを考えると、せいぜい半径 200 メートルが適当ではないかと考えている。
また、この場所は、岬のエリアで両方からのアクセスが非常に難しく、これをどのように解消していくかが行政の課題にもなっていると思う。岬のエリアの下からベビーカーを押してくる方もいる。このような方々を想定して計画を立てていかないと、なかなか市民に愛される施設にはならないのではと心配している。この場所には、新たな文化施設に加えて、民間収益施設、ＮＨＫも含まれるということで、本当に長崎市の顔となるべき場所だと考えている。
資料を見ると、荷降ろし場としてのスペースは想定されており、大きな舞台をするときには、この荷降ろし場は意味があると思う。ただ、参加する人たちが、周辺の駐車場を探して、雨の日などに楽器を担いで来るだろうか。参加する方、鑑賞される方がこの文化施設を自分

のものとして使うためには、一定の駐車スペースは必要だと考えられる。そこで、どうしたらいいのかと考えたときに、やはり桜町駐車場を活かすことが一つの解決方法なのかなと思われる。この岬のエリアは長崎で唯一地下が開発できる高台にあり、地下に駐車場を作ればいいではないかと思うが、相当なお金もかかるので無理は言えない。そうなると、一番現実的なのは、桜町駐車場を騙し騙し使っていくことだと思う。桜町駐車場は新文化施設のための駐車場ではなく、民間収益施設の方々、ＮＨＫの方々にも利用していただけるものなので、文化施設とは切り離し、都市計画の一環として桜町駐車場の土地を有効活用していただくことが一つの解決方法になると思う。

大変だとは思うが、このような施設には一定駐車場は必要だと思うので、もう一度知恵を絞っていただきたい。

ブリックホールも専用の駐車場はないとはいえ、茂里町駐車場があり、130 台ぐらい収容できる。2000 人で 130 台ぐらいであれば、1000 人ではその半分の 50～60 台はほしい。また、県美術館も自前の駐車場はないが、すぐそばに公営駐車場がある。このようなアクセスのいいところに駐車場があれば、別に新文化施設に作らなくても構わないと思うが、一定の駐車場は必要だと思うので、もうひと絞り考えてほしい。

【会長】

質問と解決策を両方いただいたような考え方であった。方策をぜひ検討してほしい。

【委員】

長崎の文化振興を話すなかで、一番大切なことは市民会館だと思う。新文化施設が出来ると市民会館を無くすという話だった。無くなるということは、市民会館を使用している方々が新文化施設に移行するということではないのか。そういうことを考えると、市民会館のことも考えてこその文化振興だと思う。

【事務局（市民生活部）】

市民会館の中のホール機能については、新しい文化施設が出来てから廃止という方針は出している。ご指摘のとおり、新たな文化施設の整備の話だけでなく、市内ホールはブリックホールもあれば市民会館もあり、チトセピアホール、メルカつきまちなどもある。市民会館で行っている催事が、新たな文化施設に移行するというところは実際にあると思う。また、ブリックホールで行っている 1,000 席程度の催事も移行が考えられる。

そのように、市内ホールそれぞれの適正、キャパシティと機能があり、棲み分け、役割分担は以前から考えているところではあるが、現状の考え方でいいのかというのは、しっかり今後も整理を進めていきたいと考えている。皆様のご意見も伺いながら、市内ホール全体の在り方について引き続き検討したい。

【事務局（企画政策部）】

桜町駐車場の件で、先ほどお話があった部分について少し説明をしたい。桜町駐車場について、もう少し文化施設の利用者、この周辺にやってくる方の車利用に対して対策を考えてほしいということだったと思う。

ここについてお話をさせていただくと、桜町駐車場は建築して 55 年が経過しており、一般的なコンクリート構造物だと 65 年が耐用年数とされており、あと 10 年、文化施設が出来て残り数年といったところになっている。それを延命化するということになると、相当な費用が掛かることになる。駐車場の下には電車と道路が走っており、延命化するにも工事で何も落ちないように防護柵をして、電車が走っていないときに実施する必要があるなど、難工事になってくる。それだけであれば、まだ検討の余地もあると思うが、市役所移転後、利用者は少なくなってきており、今後、収益赤字になる見込みもある。文化施設、民間収益施設、ＮＨＫが出来ても、回収分を賄えるかというと、なかなか難しい状況もあり、今回、桜町駐車場を廃止にするという方向性を議会にも報告している。

ただ、このエリアにどのようにして車でやってくるかということを考えるのは非常に重要であると思っており、駐車場ではなくても一時的な立ち寄れる場所があり、利用する人が一時的に降りて利用できるとか、楽器の荷降ろしなど主催者、貸館利用者の方が近くに停められる場所を設けるなど、色々な対策があると考えているので、引き続き民間業者とも協議をしながら検討していきたい。

【委員】

駐車場の件は、先ほどの委員の説明で良いと思ったが、いまの発言を聞いて、もう一言言いたくなった。市役所の駐車場の利用が少ないので利用を増やし、収益を上げたい、桜町駐車場を整備するにも費用が掛かるので、あまり払いたくない。要は、市の財政が厳しく、何とかしたいので、これを機会に廃止にしたい。ただ、それだけの理由だと納得しないだろうから、近隣の駐車場はこれだけあり、使用されていないということを説明したように聞こえた。

税金というのは、市民が市民のために使うものであって、桜町駐車場が有るのと無いのとどちらのほうが市民にとっていいのかと考えると、明らかに残すほうがいいに決まっている。確かにお金も掛かると思うが、市役所の駐車場利用が少ないのは、料金が高いことだと思う。安ければもっとたくさん入ると思う。桜町駐車場を活かす方向で是非検討してほしいと思うが、ここは議会の範疇なので、市議会議員の方に期待したい。

【会長】

それぞれの立場で説明しなければならないこともあるかと思うが、この審議会は何のために開催しているのかというと、長崎市、それも文化を矜持する人たち、あるいは、子どもたち、ご高齢の方々のためにあるわけで、先ほどの説明は主語が違っていた。

ホールを利用する人たちのためにどうやったらいいかという主語で考えると、委員の言い方になるので、意見を受け止めて知恵を絞ってほしいと思う。

私が一番気にしているのは、今年度の補正できちんと予算を通していただいて、次に進まないといけない。我々は3年半、非常に苦い経験をしており、あの時、3月の段階で審議会を開催し、設計まで進んでいれば、こういうことにはならなかった。是非とも先へ進めていただいて、後戻りしないように頑張ってほしい。よろしくお願い申し上げる。

以上。